

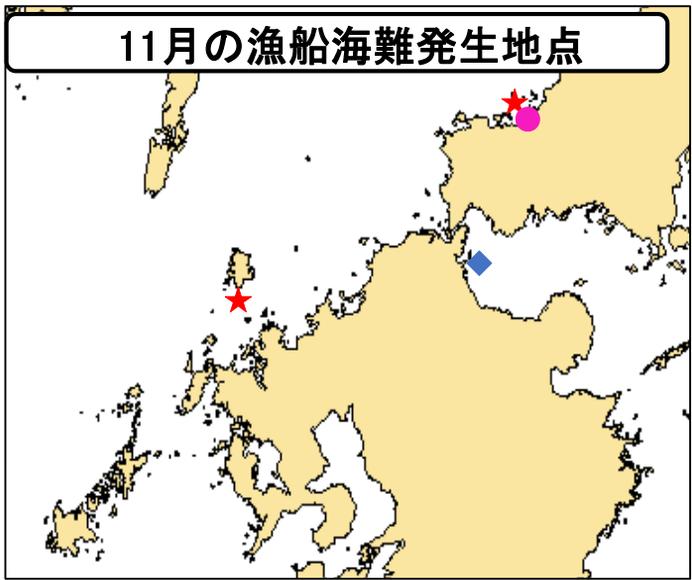
令和4年11月発生
七管内漁船海難 計4隻

令和4年11月累計 72隻 (前年84隻)
漁船海難発生隻数は前年に比べ **12隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)		
衝突	★	2
火災	●	1
運航不能 (有人漂流)	◆	1
合計 4隻 (昨年 8隻) 死亡、行方不明者: 0名		

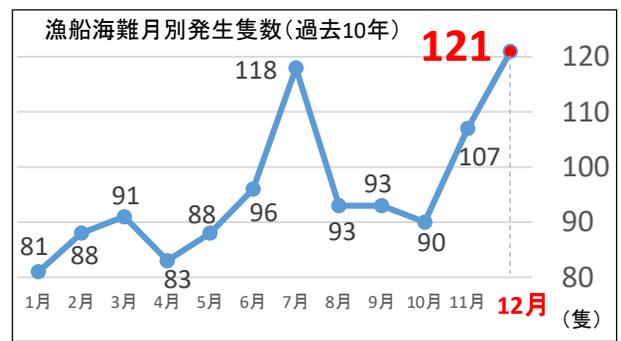
	県別内訳	
	11月	令和4年累計
山口県	2	10(10)
福岡県	1	19(13)
佐賀県	0	8(4)
長崎県	1	27(43)
大分県	0	8(14)
合計	4隻	72隻 (84隻) ()は昨年同月

累計死亡・行方不明者数
6名 (令和4年11月末日現在)



冬の海！ 過去10年統計 12月は月別で最多 荒天による海難注意！

漁船の海難発生数は、全国的に冬場に多くなる傾向があり、七管区でも過去10年間の漁船海難を月別に集計すると、**12月に発生した海難隻数が最多**となっています。また、冬場は、西高東低の気圧配置により北西の強い季節風が強く吹き、荒天となることが多く荒天が原因の海難も発生しています。



【事例】漁船A丸(2名乗組)は、操業を終え定係港向け航走を開始したところ、**急に海上模様が悪化し**船首方向より大波を受け船内に浸水。波浪を回避するため、反転するも浸水が止まらず身の危険を感じ、海に飛び込み、その後、船は転覆。乗組員は船底に這い上がり救助を待ち、僚船に救助された。
(北西の風16m、波高2m、海上風警報発令中)

最新の気象・海象情報を入手

荒天への対応は、早めに行うことが肝心です。常に最新の気象・海象情報を入手しましょう。

早期避難・帰港

荒天が予想される場合には、出港を取りやめたり、早めに操業を切り上げる等の措置をとりましょう。

荒天対策の徹底

やむを得ず、荒天下を航行する場合は、自身の身の安全を確保した上で、開口部の閉鎖状況などの点検を行い、荷崩れや浸水の防止措置を確実にいきましょう。